



ISSN 1344-7572

研究報告集録 第131-01

大阪教志セミナーの効果と役割に関する 調査・研究

平成28年3月
大阪府教育センター

はじめに

大量採用時代の中、大阪府公立小・中学校、高等学校、支援学校においては、経験年数の少ない教員の比率が急増している。大阪府教育委員会や各校では、初任期段階の教員に対して、初任者研修等、各校内・外での研修により支援しているものの、「授業づくり」、「生徒指導」、「授業規律の確立」等、多くの課題や悩みを抱えていることが、大阪府教育センターの調査で明らかとなっている。

大阪府教育委員会は、教員の大量退職、大量採用が続くことから、熱意のある優秀な教員を確保するため、平成19年度に「めざせ！熱中先生」をコンセプトに、教員養成を目的として、大阪府教育委員会事務局、大阪府教育センターの協働によるワーキンググループを発足し、平成20年度より、採用前から初任者研修までの教員養成の連続性を考え、教員をめざす学生を対象とした「大阪教志セミナー」と大阪府公立学校教員採用選考テスト合格者を対象とした「プレナビ」を実施している。

「大阪教志セミナー」は、平成25年度より修了認定した受講者には教員採用選考テストの第1次選考を免除しており、同年度より受講希望者が急増した。しかし、受講希望者、及び修了認定者の中にも、第1次選考免除のみが目的の者が少なくなく、教員としての資質や能力が十分身に付いていないことが危惧されており、この傾向は、年々増加している。

「大阪教志セミナー」を修了した初任期の教員の状況を把握することにより、「大阪教志セミナー」の内容検討及び方向性に関する考察を実施するとともに任用予定者に事前に指導すべき内容を検討し、教員採用選考テストの合格者を対象とした「プレナビ」の内容の充実につなげたい。

1 研究の概要

(1) 研究主題

「大阪教志セミナーの効果と役割に関する調査・研究」

(2) 研究の目的

「大阪教志セミナー」について、セミナー修了生の学校現場での状況を調査し、「大阪教志セミナー」の効果を検証するとともに、教員養成における教志セミナーの果たすべき役割を探る。

(3) 研究の方法

- ① 大阪教志セミナー 修了生へのアンケート調査
- ② 大阪府教育センター研究フォーラムにおいてアンケート結果の考察、第5期生6期生修了者による研究協議及び大阪教育大学大学院森田教授の助言、提起等

2 研究内容

(1) 大阪教志セミナーについて

- ① 目的 「大阪で教師になりたい！」という“高い志と情熱”をもつ学生を対象として、教員として求められる資質や基礎的な指導力を育むことを目的とする。
- ② 募集人数 200人程度（平成21年度までは100人程度、平成22年度は150人程度）
- ③ 受講資格 次の要件をすべて満たす者
 - ・大阪府（大阪市、堺市及び豊能地区を除く）の小学校、中学校、高等学校及び支援学校の教員をめざしている人
 - ・セミナー実施の翌年度中に希望校種・教科等の教員免許状を取得見込みで、セミナー実施年度の翌年度に大阪府公立学校教員採用選考テスト受験予定の者
- ④ 選考方法 集団面接及び応募書類にて選考（平成20年度は、第1次選考：書類選考、第2次選考：集団面接 平成21・22年度は集団面接と個人面接）
- ⑤ 講座内容
大阪府教育センター等での「講義・演習」12回（1泊2日の自然体験実習を含む）
「実地実習」半日×20回、「指定された府内研究発表大会」1回

⑥ 修了認定と第1次選考テスト免除

平成24年度から、基準を満たし修了を認めた者は、セミナー実施年度の翌年に行う「大阪府公立学校教員採用選考テスト」において、第1次選考テスト（筆答、面接）を免除している。

実施年度別、修了者数等（平成24年度、5期生より1次免除）

実施年度	期	修了者数	受講者数	応募数	各大学での説明会	センター説明会
平成20年度	1期生	129	131	203	280	32
平成21年度	2期生	130	135	199	472	15
平成22年度	3期生	177	182	342	663	31
平成23年度	4期生	209	213	295	592	6
平成24年度	5期生	210	228	700	486	30
平成25年度	6期生	235	243	795	873	34
平成26年度	7期生	221	229	843	873	136
平成27年度	8期生	184	199	739	944	170

（2）大阪教志セミナー 修了生へのアンケート調査

① 大阪教志セミナー 第5期生、第6期生 アンケート及び結果

<1>大阪教志セミナーに応募した理由の中で最も当てはまるものを選んでください。

- | | |
|-------------------|----------------|
| ①教職をめざす仲間ができる。 | ②講座の内容に興味がある。 |
| ③学校現場での実地実習ができる。 | ④現場の先生の講義がある。 |
| ⑤府内の研究発表大会に参加できる。 | ⑥自然体験実習がある。 |
| ⑦修了すると1次試験が免除になる。 | ⑧大阪府が主催している。 |
| ⑨大学の先生や先輩に勧められた。 | ⑩家族や保護者に勧められた。 |

No	選択肢文言	件数	割合(%)
1	①教職をめざす仲間ができる。	17	29.31
2	②講座の内容に興味がある。	7	12.07
3	③学校現場での実地実習ができる。	3	5.17
4	④現場の先生の講義がある。	0	0
5	⑤府内の研究発表大会に参加できる。	0	0
6	⑥自然体験実習がある。	0	0
7	⑦修了すると1次試験が免除になる。	26	44.83
8	⑧大阪府が主催している。	1	1.72
9	⑨大学の先生や先輩に勧められた。	3	5.17
10	⑩家族や保護者に勧められた。	1	1.72

< 2 >次に当てはまるものを選んでください。（< 1 >で回答したもの除きます）

No	選択肢文言	件数	割合(%)
1	①教職をめざす仲間ができる。	11	18.97
2	②講座の内容に興味がある。	16	27.59
3	③学校現場での実地実習ができる。	8	13.79
4	④現場の先生の講義がある。	4	6.9
5	⑤府内の研究発表大会に参加できる。	0	0
6	⑥自然体験実習がある。	0	0
7	⑦修了すると1次試験が免除になる。	8	13.79
8	⑧大阪府が主催している。	3	5.17
9	⑨大学の先生や先輩に勧められた。	7	12.07
10	⑩家族や保護者に勧められた。	1	1.72

< 3 >その次に当てはまるものを選んでください。（< 1 >< 2 >で回答したもの除きます）

※< 1 >～< 3 >の合計では「修了すると1次試験が免除になる。」が80%と高い割合になっていた。

< 4 >大阪教志セミナーの講座を通して学んだことは何ですか。（自由記述）

（おもな回答例）

・子どもを理解し続ける大切さ
・教師になるための心構え
・大阪府の教育の現状
・教科指導の技術や指導計画の立て方
・志の高い仲間と共に切磋琢磨して取り組めたこと

※大学の中では知ることのできないことを学べたという意見も多かった。

< 5 >大阪教志セミナーの講座の中で、最も今の自分に生かしている内容を選んでください。

- ①連続講座「授業力をつけよう」
- ②連続講座「一人一人の子どもを理解し支援するために」
- ③連続講座「現場の先生に学ぶ」
- ④模擬授業の実施
- ⑤指導案作成
- ⑥自然体験実習
- ⑦実地実習

⑧研究発表大会への参加

⑨その他

No	選択肢文言	件数	割合(%)
1	①連続講座「授業力をつけよう」	10	17.24
2	②連続講座「一人一人の子どもを理解し支援するために」	15	25.86
3	③連続講座「現場の先生に学ぶ」	8	13.79
4	④模擬授業の実施	4	6.9
5	⑤指導案作成	5	8.62
6	⑥自然体験実習	0	0
7	⑦実地実習	12	20.69
8	⑧研究発表大会への参加	0	0
9	⑨その他	4	6.9

< 6 >どのように生かしていますか（自由記述）

（おもな回答例）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を作るときの構成の仕方（目標設定、生徒につけたい力をしっかり考えること 等） ・ 学習指導案を作成する際に考えるべきこと（目標、評価規準、児童生徒の実態 等） →自信を持って授業を考えることができる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校現場の現状 ・ 実際の子どもたちの様子や、子どもたちや先生方とのコミュニケーション ・ 実習先で見た先生方の子どもたちへの接し方や授業の仕方 →実地実習で実感したことを自分の職務に生かしている

< 7 >大阪教志セミナーの講座の中で今の自分にあまり生かしていない内容を選んでください。

（< 5 >と同じ選択肢）

No	選択肢文言	件数	割合(%)
1	①連続講座「授業力をつけよう」	3	5.17
2	②連続講座「一人一人の子どもを理解し支援するために」	1	1.72
3	③連続講座「現場の先生に学ぶ」	2	3.45
4	④模擬授業の実施	5	8.62
5	⑤指導案作成	7	12.07
6	⑥自然体験実習	17	29.31
7	⑦実地実習	5	8.62
8	⑧研究発表大会への参加	11	18.97
9	⑨その他	7	12.07

< 8 >< 7 >で答えた内容が、あまり生かされていないのはなぜですか。（自由記述）

（おもな回答例）

自然体験実習 ・まだ、自然体験の活動を学級で実施する場面がない ・学級担任をしていないので、クラスや行事を仕切るような機会がない
研究発表大会 ・内容が学生にはわからないようなことが多かった ・まだ自分がそこまでのレベルに達していなかったため、内容がよくわからなかった ・今の勤務先の実態に合っていない

< 9 >大阪教志セミナーを受講する前と後で、教職に対する自分の意識に変化はありましたか。

No	選択肢文言	件数	割合(%)
1	①意識が高まった。	52	89.66
2	②変わらなかった。	6	10.34
3	③意識が高まらなかった。	0	0

< 10 >< 9 >の質問で「①意識が高まった」「③意識が高まらなかった」を選択された方はどのように変わったか、具体的に記入してください。

（おもな回答例）

・視野が広がり、自分に足りないことが多いことに気付いた
・他のセミナー生との出会い（同じ志を持つ仲間の存在、共に切磋琢磨）
・具体的な目標を持てるようになった
・現場の先生方から具体的な話が聞けた
・大阪の子どもたちのためにがんばりたい

< 11 >大阪教志セミナー以外で、教師になるために勉強したことや体験したことは何ですか。具体的に記入してください。

（おもな回答例）

・スクールボランティア（学習支援、放課後学習、適応指導教室等 他多数あり）
・キャンプリーダー
・学童保育の指導員
・大学での面接練習、小論文講座
・大学で教員をめざすサークルの立ち上げ

<12> 教員として勤務する中で、教職への希望と現実とのギャップにおいて、赴任当初困ったことは何ですか。

- | | |
|--------------|-----------|
| ①児童生徒との関わり | ②保護者との関わり |
| ③同僚の教員との関係 | ④授業づくり |
| ⑤校務分掌 | ⑥様々な事務作業 |
| ⑦地域や関係機関との連携 | ⑧その他 |

No	選択肢文言	件数	割合(%)
1	①児童生徒との関わり	7	12.07
2	②保護者との関わり	5	8.62
3	③同僚の教員との関係	9	15.52
4	④授業づくり	11	18.97
5	⑤校務分掌	5	8.62
6	⑥様々な事務作業	11	18.97
7	⑦地域や関係機関との連携	0	0
8	⑧その他	10	17.24

<13> 採用前にもっと知っておいた方が良かったと思うことは何ですか。具体的に記入してください。
(おもな回答例)

・保護者とのかかわり方 (様々な具体例)
・具体的な生徒指導の方法
・校務分掌や事務作業等、子どもと関わる以外の仕事
・教員の仕事量の多さ
・いろいろな日々の活動 (朝の会、終わりの会、掃除当番、給食当番 等)

<14> これまで実践・経験した個々の児童生徒への指導・支援で、うまくいかなかったことがあれば教えてください。

(おもな回答例)

・一人一人の子どもに合わせた対応が難しい
・生徒とのコミュニケーションがうまくいかなかった
・学級のルールがいつの間にかゆるくなってしまった
・時間に追われ、子どもの話をじっくり聴けなかった
・不登校の生徒の支援

<15><14>でうまくいかなかったことがあったと答えた方は、その原因は何だと思えますか。具体的に記入してください。

(おもな回答例)

・自分自身の指導に対する経験の少なさ、技量不足
・子どもの困り感を理解できていなかった
・子どもに対するアプローチの方法が少なかった
・その場に応じた対応の仕方がわからなかった
・自分のことで精いっぱい、子どもや周りのことを考える余裕がなかった

<16>「学び続ける教員」として、今後取り組んでみたいこと、学んでみたいことは何ですか。具体的に記入してください。

(おもな回答例)

・授業力の向上（子どもの実態に合わせた授業、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業、教科の専門知識、どの子にもわかる授業等 多数あり）
・子どもとの信頼関係づくり
・教材、教具、ICT機器の活用
・研究授業の実施、研究会への参加
・さまざまな児童生徒への支援

② アンケート結果の分析

- ・<1>～<3>より、志望動機として「1次試験が免除」が大きなポイントとなっている。
- ・<5><6>より、講座内容で生かしていることは連続講座「一人一人の子どもを理解し支援するために」、「実地実習」で、理由は「教室には様々な子どもたちがいることを日々実感し、子どもに応じた関わり方の大切さを痛感した。」「実習先で見た先生方の接し方や授業の仕方を参考にできている。」等が挙げられていた。
- ・<7><8>より講座内容で生かしていないこととしては「自然体験実習」「研究発表大会への参加」で、その理由は「まだ、自然体験の活動を学級で実施する場面がない。」「学級担任をしていないので、クラスや行事を仕切るような機会がない。」「まだ自分がそこまでのレベルに達していなかったので、研究発表というのが、そもそも何なのか理解しきれていなかった」「内容が学生には分からないようなこともたくさん入っていた」などが挙げられていた。
- ・<9><10>より、「大阪教志セミナー」を受講する前と後では、ほとんどの受講生が教職に対する意識が高まったと答えており、理由としては「他のセミナー生と出会い」が多かった。
- ・<11>より、教員になるために「大阪教志セミナー」以外にかなり多くの人が、何らかのボランティアや研修会に参加していることがわかった。
- ・<12>～<15>より、教員の仕事には「授業づくり」「生徒指導」以外に「様々な事務作業」「保護者との関わり」等、様々な業務があることを知り戸惑う者が多かったことがわかった。学生の間にはなかなか知る機会がなく、「大阪教志セミナー」でも触れられていない部分である。また、採用後に「教材研究の時間が取れない」「子どもの話をじっくり聴けない」等、わかっている時間がないという忙しさを実感したという人も多くみられた。
- ・<16>より、多くのセミナー修了生が「授業力の向上」（子どもの実態に合わせた授業、子どもがわかる授業、等）に取り組もうとしていることが明らかになった。

(3) 大阪府教育センター研究フォーラム

大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科 森田教授の講演より

講演テーマ「教員養成段階における育成の在り方」

・学生、初任期の教員を取り巻く教育の現状、ギャップ

現在の大学の教育は、小・中学校、高等学校の延長になってしまっている部分が多い。考え方においても「消費社会」同様、与えられたものを取り入れることしかできていない。

現状は、学生の学力格差、学業へ取り組む姿勢にも違いがある。その背景には、経済格差、地域格差等の要因もある。

現在の社会状況を理解できていない学生もいる。例えば、大学で福祉関係の分野を専攻し、仕事に就いた者が、現場の深刻な状況を始めて知ることとなり、それまでの自身の置かれた環境との違い、そのギャップの大きさに驚くということが起きている。

教員においても同様で、現状の理解や、自身の生育環境とのギャップに苦悩している状況がある。

・「大阪教志セミナー」が果たしていること

「大阪教志セミナー」は、アンケート結果から、1次選考が免除になることを目的に受講している学生が多いことが分かった。しかし、1次選考を免除されたとしても、1次選考で問われる教員として必要な知識や基本的な学力は身に付けておかなければならない。つまり大学生の間に十分な学修が必要となる。

「大阪教志セミナー」では、「実地実習」や「現場の教員に学ぶ」等の講座を通じて、教員の仕事についてのイメージを与えることができている。今後も「教員となった時に感じるギャップ」を少しでも解消できるような取組を進めていくことが必要である。

教員となった時に様々な事象が起こることへの“覚悟”と、それに対する“構え”を持つことができるようにしておく。教員として向き合うこととなる学校現場における課題に対してのイメージを持つこと、自分なりの対処を準備しておくことに対応できる内容を充実させる。

・今後について

あらゆる地域で、大学と教育委員会が連携・協働し、採用前、及び初任期における教員の育成を進めていかなければならない。大学で対応できること、教育委員会ができることの役割分担と連携が重要となる。

教職大学院では、カリキュラム作成等を行っているが、直接児童・生徒と関わることがない（附属学校園しかない）ため検証が十分できていないとは言えない。そのような部分を教育委員会、「大阪教志セミナー」が学校現場と連携し担うことができるのではないだろうか。

今後は、スキルを習得するだけでなく、習得したスキルを“どのように使えるか”が重要となる。“適応的熟達化”ができるようにしていく。「大阪教志セミナー」や、合格者を対象とした「ブレナビ」において、教職への“構え”を育成していくことが重要である。

3 まとめと今後の予定

今回、セミナー修了生へのアンケート（大阪府教育センター研究フォーラムでの修了生へのインタビュー）、大阪府教育センター研究フォーラムでの講演を踏まえて、「大阪教志セミナー」の意義と役割について考察を行い、今後の在り方や実施内容について検討した。

- ・児童生徒理解に直接関わる内容（「子ども理解」や「実地実習」）は受講生もよく理解できており、採用後もすぐに生かすことができているので、今後も継続して実施していく方向で進める予定にしている。しかし、自然体験実習は、校種や受け持つ学年によって活用の場面が限られているようである。また、「研究発表会」は学生には内容が難しいものもあり、どちらも実施方法等について考えていかなければならない。

- ・「大阪教志セミナー」修了者は、翌年の教員採用の第1次選考が免除される。そのため、第1次選考免除に値するだけの学力が備わっているのかの検証が必要であると考えた。そのため今年度は教養テストを実施した。
- ・来年度は「大阪教志セミナー」「プレナビ」（教員採用選考合格者対象セミナー）の実施にあたり、今回の考察を踏まえて、「学生時代にやっておくべきこと」「採用前にやっておくべきこと」を整理し、より効果的な育成をめざし、講座内容の見直しを行う。また、現在各市町村教育委員会に「大阪教志セミナー」「プレナビ」についての意見を聴いており、それらも踏まえて具体的な内容の検討を進めていく。